

全会員の皆様へ心から訴えます

「いま『協同』を問う'92全国集会」実行委員会への参加のお願い

地球規模で考え、地域で活動する

1992年2月5日

協同総合研究所 理事長 黒川 俊雄

1987年の伊東での「いま『協同』を問う」プレ集会以来、五月集会（89年・明治大学）、十一月集会（90年・社会文化会館、全共連ビル）と、生協、農協、医療生協、労働金庫、労働者協同組合、労働組合、自主生産企業、文化・教育運動団体、障害者共同作業所など、様々な部門の人々が一堂に会して、「協同」の現代的な意義を探究し、幅広いネットワークによる事業と運動の新しい可能性を探ってきました。当研究所もそうした取り組みの中から、協同の総合的研究のために、昨年3月設立されました。

今年は、6月にブラジルで地球環境サミットが開かれ、10月には東京でICA（国際協同組合同盟）の第29回大会が、「協同組合の基本的価値と原則」「環境と持続的発展」をテーマに開催されようとしています。金もうけ主義が暴走し、人類の危機を加速してきた日本において、人類の存続と協同の現代的意義の討議は、とりわけ重要です。

金もうけ第一主義でなく、人々がその願いと人間らしく生きられる地域づくりをめざして進めている各地の協同の取り組みが、いっそうその真価を発揮し、大きく成長すべき時がきていると言えます。人類の希望は、地域からの協同とその幅広いネットワークの成長にかかっていると言っても過言ではありません。

そうした趣旨から、本年度は、6月27～28日、京都の立命館大学を会場に、「地球規模で考え、地域で活動する」を合言葉に、全国協同集会を開催したいと考えます。

日程としては、第一日目に、全体シンポジウムで人類的な危機の全体像とその克服の方向、協同運動の役割を討議し、これを受けて、第二日目には、環境、地域医療・福祉、子供・教育・文化の協同、農林業の再生、労働者協同組合・自主生産企業の経営と労働、協同組合間協同の新展開、労働組合と協同組合などの分科会で、お互いの事業と運動の新しい発展方向にとってもヒントとなる、実践的討論を進めたいと考えています。

さまざまな分野で協同的な取り組みを進め、あるいは協同に現代的関心を寄せられているみなさんが、ともに実行委員会をつくり、集会を充実、成功させていただきよう、心から訴えます。

【お願いしたい事項】

- ①団体・個人が実行委員になっていただき、会議に参加して(月1回程度のペース)集会の企画・準備にご協力いただくこと
- ②各組織で集会を宣伝し、参加を組織していただくこと
- ③報告者、司会者、助言者になっていただくこと
- ④財政面から集会を支えていただくこと

——地球規模で考え、地域で活動する——

「いま『協同』を問う'92全国集会」基調について

人類的危機の中で求められる

協同原理・システム・社会への転換

ICA（国際協同組合同盟）の80年大会報告（レイドロー報告）は、金もうけ第一主義が人類的な危機をもたらしている現代を「狂気の時代」とし

てとらえ、「世界の飢餓問題の解決」「人間的労働の復権」「浪費社会から自然・資源を保全する社会への転換」「協同組合地域コミュニティの形成」を21世紀に向かう協同運動の四大課題として提起しました。今から見てもきわめて先駆的な、そして協同組合以外の人々にもアピールする重要な提

起であると思われます。ICA東京大会は、レイドロー報告以来の討議と実践を集大成するものとして、重要な意味を持っています。

レイドローの指摘通り、今日、金もうけ第一主義による大量生産・大量消費・大量廃棄は、既に飽和点に達し、いたるところで破局的様相を示しています。

食べ物、水、空気、土壌、日光、森林、海洋など、人間と生物が生きる根源が汚染され、破壊されています。環境・資源問題だけではありません。

多国籍企業の支配は、国民国家の制御を超えて拡大し、第三世界に対する搾取と収奪を推し進め、飢餓と貧困、大量の流民を生み出しています。

アメリカをはじめ、膨大な軍事費による戦争準備体制と経済の軍需依存が続き、民族紛争の激化とあまって、新たな核戦争の危機さえ懸念されます。

大量失業と労働の不安定化は先進資本主義をもたらえ、アメリカでのホームレスや暴力・犯罪の増大、ヨーロッパでの青年の社会意識の喪失をもたらしています。

とくに日本で顕著な、金もうけ主義のもとでの幼い頃から中高年に至る厳しい競争は、人々の孤独と不安、自己の喪失感を強め、心身の病いを増大させています。

まさに人間・自然・社会をつらぬく全面的な危機と言わなければなりません。

人類の存続のためには、もうけ主義に代る①新しい生き方・働き方の原理、価値観の転換、②人々の願いに根ざした事業・運動システムの形成、③地域の再生と「持続可能な社会」の再確立が、差し迫って求められているのです。

協同のネットワークを今こそ大きく

危機の時代は、また、ごく「普通」の人々が、労働と生活の場から、現状の根本的転換を願わざるをえない時代であると言うことができます。

少なくない人々が、あくなき浪費と物欲の追求に疑問と批判を持ち、自然のバランスが保たれ、第三世界の人々を苦しめない生産と消費のあり

方、文化的な高い質の生活を望み始めています。

「誰かを愛し、誰かに必要とされ、多くの人々と心を通わせて、それに支えられて生きる」ことが、人間に不可欠のあり方であるとすれば、愛と協力の中で、すべての人が一人一人のかけがえのない可能性を最大限活かした、働きがいある仕事、生きがいある生活を求めることは、当然の勢いでありましょう。

もうけ主義でなく、人々が協力した「地域づくり・仕事おこし」運動が、様々な地域と分野で進められていることは、偶然ではありません。

「地球的に考え、地域から行動しよう」という言葉通り、人類の希望は、このような人間らしく生きられる地域づくりの無数の実践の成長にかかっています。

働く者がもうけ主義に振り回されずに、生産と消費を自ら自覚的に組織し、企業の主人公となった労働者・生産者の協同運動と、高い生活の質を求める消費者・利用者の協同運動が、共感と連帯で結び付くとき、そしてこれらが公務労働者や住民の運動と連携するとき、①農業や林業の再生、②手作り・本物、環境を破壊しない工業の成長、③子育て・教育・文化・医療・福祉などのヒューマン・サービスが真に尊重される地域、④破綻した焼却・埋立てのゴミ処理体系に代る分別・リサイクル体系の創造、の手がかりが得られるでありましょう。

すべての人に関わる問題として

人類的危機の克服のためには、もちろん、企業に対する民主的規制の強化や政治的民主主義の確立が不可欠なことは言うまでもありません。

同時に、人類の危機を真に克服しようとするならば、単なる反対闘争だけでなく、人間が人間らしく生きられる地域づくりや、バランスのとれた産業の発展を、働く者が主導して、今から進めていくことが、どうしても欠かせなくなっているのです。

「住民の自立と協同を支援する」新しい公共性の概念の追求という点でも、企業経営・労働のあ

り方を変革し「労働者が企業の主人公になっていく」労働組合運動、経済を含めて地域を総合的につくりかえる「住民が主人公になっていく」住民運動の成長にとっても、「協同」という視点はきわめて重要になっていると言えます。

協同を志向する人々、協同に関心を寄せる人々が、一人でも多く集会に参加され、これを契機に議論を広げ深めていただくことを、心から願うものです。

「いま『協同』を問う'92全国集会」要綱（案）

【名称】いま「協同」を問う'92全国集会
—地球規模で考え、地域で活動する—

【日時】1992年6月27日（土）午後2時より
28日（日）午後4時まで

【会場】立命館大学・明学館（京都市）

【内容】＝第1日目（27日、午後2時～6時）＝

- 実行委員長、現地歓迎挨拶
- シンポジウム、パネルディスカッション
「人類の危機と協同の対案（オルタナティブ）」
第1セッション「人類の危機と協同の原理」
第2セッション「私たちの実践的対案」
第3セッション「協同の総合的な発展のために」
- 交流懇親会（午後6時より）
- 翌日の司会者・助言者・報告者打ち合せ

＝第2日目（28日、午前9時～午後4時）＝

- 分科会（報告者、司会者、助言者をもうける）
 - ①地球・地域環境と資源問題
 - ②地域医療・福祉づくりと協同
 - ③子どもと生活・地域をめぐる協同
 - ④教育・文化の新たな協同の営み
 - ⑤農業・林業の再生と協同
 - ⑥協同企業における経営と労働
 - ⑦協同組合間協同の新たな展開
 - ⑧労働組合と協同組合
 - ⑨入門講座：労働者協同組合への招待 等

*協同総研総会を第1日目の集会開始前に行なう。

【参加者目標】400名

第1回実行委員会のお知らせ

- ・2月22日（土）14：00～
- ・国鉄労働組合会館、会議室（JR東京駅、八重洲南口から新橋方面へ約100m、線路沿いのビル）

【協同セミナー・Part I 「協同で明日を拓く」】

- 主催：生活文化・地域協同研究会（埼玉）
- 連続講座がよいよスタート。「トトロの森」をトラスト運動で保存しようとしている狭山丘陵に近い、埼玉所沢の地で開催。第2回目までは以下の通り。その後は引き続いてお知らせします。
- 第1回：2月29日（土）13：30～17：00
大嶋茂男（生協総合研究所）「協同組合とは一協同組合の現代的役割と可能性—」
- 第2回：3月7日（土）18：00～21：00
菅野正純（協同総合研究所）「いま働き方と仕事を考える—労働者協同組合のめざすもの—」

*当初、6月は協同総研の研究大会を開催する予定でございましたが、本誌4号22頁でお知らせしましたように、「全国協同集会」を継続させながら、協同総研内外の幅広い実践・運動が交流し合い、理論研究も深める方向で構想替えしました。

○会場：いずれも所沢市中央公民館（所沢市元町27-2、電話0429-26-9355）

○参加費：2回通しは3,000円、1回のみ2,000円

○申込先：菊池 陽子（電話048-832-3269）
増田アツミ（電話0429-24-1507）

【生協と共同作業所の提携活動全国交流会】

○主催：共同作業所全国連絡会、生協4単協

○日程：3月10日（火）～11日（水）

○会場：広島県立生涯学習センター（広島駅から徒歩10分、電話082-262-2411）

○問合せ先：生活協同組合ひろしま、組合員活動室、中原均（電話082-252-8415）